

第2回 鉄道における準天頂衛星等システム活用検討会 概要

1. 日 時 : 令和元年 9 月 19 日(木) 13:00 ~ 14:30
2. 場 所 : 中央合同庁舎 3 号館 11 階特別会議室
3. 出 席 者 : 中村日本大学名誉教授、水間東京大学特任教授、古関東京大学教授、
鉄道事業者、関連団体、研究機関、
国土交通省鉄道局、交通安全環境研究所
4. 結果概要 :

第2回検討会では、内閣府から準天頂衛星の最近の動向について、準天頂衛星システムサービスから準天頂衛星独自の災害・危機管理通報サービスについて、J R 北海道から衛星測位に関する同社の取り組みについての話題提供の後、事務局からこれまでの検討状況と今後の方向性について説明を行った。委員からの主な発言は以下の通り。

- 鉄道という移動体での測位精度を検証することが重要である。
- フェールセーフ性を確保する際、稼働率(安定性)にも配慮する必要がある。
- 列車制御・保安以外の分野については、準天頂衛星を測位環境が良い箇所
にのみ活用するだけでも十分な効果を得られるのではないか。
- 速度発電機の出力から計算して得られる位置情報の補正に、準天頂衛星を
含む衛星測位技術を活用するだけでも列車位置検知には有用である。